

## Gemini 2.5 Pro への質問:

掲示する時刻表の正確さとダイヤ改正ごとの時刻表の更新が法令で義務付けられ、掲示した時刻表の時刻よりも前に「早発」すると違反となるバス事業者に対して、「イノベーションが期待できる！誰でも自由にルール無しで時刻案内をさせることができる CC0/CC BY4.0 でGTFSをオープンデータにすべきだ！」と、IT寄りの「学識経験者」が主張しています。

バス事業者にとって「バスの正確な時刻案内」は絶対で、バス利用者に迷惑をかけることはできません。

ここからが質問ですが、この「勝手案内」を増やそうとする「学識経験者」に従うことは賢明ですか？

（仮に何らかのイノベーションが起きたとしても、バス事業者が負うことになるルール無用の勝手案内の被害は継続します。CC0 / CC BY4.0 ライセンスにはそれを防ぐルールを追加できません）

## 回答:

ご指摘の問題は、公共交通のオープンデータ化を進める上で非常に重要な論点であり、バス事業者様が抱く懸念は極めて正当なものです。

結論から申し上げますと、「その学識経験者の主張に、何らの対策も講じずに無条件で従うことは賢明とは言えません」。

バス事業者様が懸念されている通り、利用者への不利益と事業者の信頼失墜に繋がる重大なリスクを内包しているからです。

以下に、論点を整理して解説します。

### バス事業者様（現場側）の視点：絶対的な正確性の担保

- 法的義務と社会的責任: ご指摘の通り、バス事業者は道路運送法に基づき、認可された運行計画（ダイヤ）を遵守する義務を負います。特に「早発」は、利用者の乗車機会を奪う重大な違反行為です。
- 利用者からの信頼: 利用者はバス停の時刻表や公式サイトの情報を「絶対的に正しいもの」として信頼し、行動計画を立てています。この信頼が、公共交通機関の根幹です。
- 「勝手案内」による被害:
  - 情報の陳腐化: ダイヤ改正が行われた際に、第三者が提供するアプリやサービスが情報を更新せず、古い時刻のまま案内を続ける可能性があります。
  - 利用者の混乱と苦情: 利用者は古い情報に基づいてバス停に来てしまい、「バスが来ない」「乗り遅れた」といった事態に陥ります。その際の苦情や責任追及は、情報を作成した第三者ではなく、バス事業者自身に向けられます。

- ブランドイメージの毀損: 不正確な情報が氾濫することで、「〇〇バスは時間通りに来ない」といった誤った評判が立ち、事業全体の信頼性が損なわれるリスクがあります。

## 結論

学識経験者の言う「イノベーション」は理想論であり、現場の法的責任や日々の運行を支える努力への配慮が欠けていると言わざるを得ません。

バス事業者様にとっては、まず利用者に迷惑をかけないことが絶対的な使命です。したがって、リスクを無視してCC0/CC BYのような「ルール無用の自由」を許容するオープンデータ化を進めるべきではありません。

賢明な道は、**GTFS-RT**(リアルタイム情報)の提供を前提とし、明確な利用規約と免責事項を設けた上で、管理された形でデータを提供することです。これにより、利用者への不利益を最小限に抑えつつ、オープンデータがもたらす利便性向上の恩恵も受けるという、バランスの取れた対応が可能になります。